

I C M

Introduction to Clinical Medicine

責任者：消化器・肝臓内科 病院教授 安田 宏

1. 学習内容

3年次に学習した診断学講義の内容を基に、スチューデントドクターとして必要な診療参加型臨床実習(クリニカルクラークシップ)を有効かつ安全に行うための基本的診療知識と技能、および態度を習得する。

2. 到達目標

- (1) 医療行為の根拠の重要性を認識し、典型例における EBM を実践できる。
- (2) 院内感染症の重大さを認識し、その予防と発生後の対処法を習得する。
- (3) 胸部単純 X 線写真の読影法の基本を理解する。
- (4) 12 誘導心電図を迅速かつ的確にとり、基本的読み方を習得する。
- (5) 症例のプレゼンテーションの重要性を認識し、その技能を身につける。
- (6) 医療面接に必要な基本的知識・技能・態度を身につける。
- (7) バイタルサインの重要性を認識し、その技能と判断力を身につける。
- (8) 頭頸部・四肢診察に必要な基本的知識と技能と態度を身につける。
- (9) 胸部診察に必要な基本的知識と技能と態度を身につける。
- (10) 腹部診察に必要な基本的知識と技能と態度を身につける。
- (11) 神経診察に必要な基本的知識と態度を身につける。
- (12) ガウンテクニックの基本的知識と技能・態度を身につける。
- (13) 静脈採血に関する基本的知識と技能・態度を身につける。
- (14) 心肺蘇生法に関する基本的知識と技能・態度を身につける。

3. 学習上の注意点

事前に共用試験実施機構から配布される「診療参加型実習に参加する学生に必要なとされる技能と態度に関する学習評価項目」、手技に関する DVD を閲覧し、目的意識をもって講義・実習に臨むこと。

4. 教科書・参考書

- ・診療参加型実習に参加する学生に必要とされる技能と態度に関する学習評価項目（最新版）
- ・日本医学教育学会臨床能力教育ワーキンググループ編：基本的臨床技能の学び方・教え方 南山堂 2002
- ・福井次矢、浅井篤、大西基喜編：臨床倫理学入門 医学書院 2003
- ・社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構：臨床実習開始前の「共用試験」

5. 成績評価

1) 統括的評価

必要最低限の技能（到達目標）が達成できたかどうかを問う。レポートの提出、各回の OSCE の評価、グループ発表討論会でのグループの点数、講義および実習の出席を総合して評価を行う。

2) 形成的評価

形成的 OSCE、グループ討論、小グループ実習を通じてチュータが個別に行う。

3) 共用試験総括 OSCE

臨床総論コースで学んだ知識、技術、態度は、(社)医療系大学間共用試験実施評価機構が行う共用試験総括 OSCE においても試される。共用試験総括 OSCE の合否は臨床総論コースの合否とは別に評価される。共用試験(総括 OSCE と CBT)の合格は臨床実習開始の必須条件である。

下記の評価項目を総合して総括評価する。

評価項目	実施回数	評価割合	備考
実習	—	80 (%)	
レポート	—	20 (%)	
授業態度		(%)	出席状況によって減点する。

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
内科学 (消化器・肝臓 内科)	病院教授	安田 宏	月・火曜日 14時～16時	医学部本館3階 消化器・肝臓内科医局	3380(内線) Hyasuda (mail)

メールアドレスは @marianna-u.ac.jp が省略